

校長室より

「天空高き」



第151号



令和3年10月30日

## 「選挙にいこう！」—31日衆議院選挙—

選挙権年齢を20歳以上から18歳以上へ引き下げた改正公職選挙法の施行から、5年を迎えています。

総務省の抽出調査によると、選挙権拡大後の平成28年7月の参院選は、18～19歳の投票率46.8%が、20～24歳の33.2%を上回っていました。しかし29年10月衆院選は40.5%、令和元年7月参院選は32.3%と低下しました。

10月31日投開票の衆院選を前に、小栗旬さんや菅田将暉さん、二階堂ふみさん、橋本環奈さんら14人の俳優、ミュージシャン、タレントが投票を呼び掛ける動画がYouTubeに投稿され、話題となっています。動画は「VOICE PROJECT 投票はあなたの声」と題した約3分半の映像です。

動画には「これは、いっさいの政党や企業に関わりのない、市民による自主制作プロジェクトです」と説明が添えられています。

彼らの一人が、この動画をインスタに添付し、「選挙にいこう！僕にできることはこれぐらい！でも皆さん達がこの声を受け取って行動してくれたら、そこには大きな意味が生まれます。選挙！是非行ってください！」と呼びかけています。

動画の中で「政治のことなんて興味なかったし、それだけ僕はすごく幸せな環境に生きてることができたんだな、っていうのを今になって実感します」などと話しています。

衆議院選挙は10月19日公示、31日投開票。あなたの1票が社会を変えます。「選挙に行こう！」



選挙は、投票する人だけにかかわることではない。投票しない人にもかかわることなのです。

(法律家、元アメリカ大統領夫人ミシェル・オバマ)

## 平和学習—岩国大空襲—

本校では毎年中学3年生が平和学習を行っています。今までは原爆資料館や大津島の回天記念館を訪問していました。

今回は、岩国大空襲を経験されている岩国在住の竹中平一氏の戦争体験談とその展示、そして市内の慰霊碑等を訪ねて、という内容でした。

講演の時に、ホワイトボードに、

「平和学習 原爆、戦争は当たり前の生活が一瞬で崩れ去る。平和の大切さを学びましょう。」という言葉が掲げられました。



私たちは、どのようにして次の世代に平和の尊さを伝えていけばいいのでしょうか。私はまず、私たちの心の内の平安、家族や友人間の親密な関係、クラスや学校などの平穏な落ち着いた関係を気付くことが大切だと思います。そして、地域社会の安全、安心。県や国レベルの安全や安定に目を向け、さらに、近隣諸国との友好的関係や世界全体レベルでの国際平和を視野に入れることだと思います。

自分自身を大切にする。次に家族や友達を大切にする。そして、地域社会、市町村、県、国、アジア、そして世界へと視野を広げるその過程で、生活習慣や文化、地理、歴史等を学習し、人々の見方や考え方の違いに気が付きます。

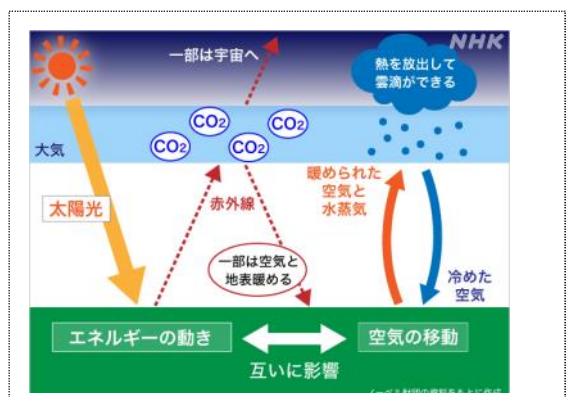
平和学習の第一歩は、知ることがスタートだと考えます。

## ノーベル物理学賞—脱炭素社会を目指して—

地球温暖化が大きな問題になっています。

世界の温暖化対策を牽引（けんいん）する国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が今夏発表した第6次報告書は、人間の活動が大気や海洋、陸域を温暖化させていると断言しました。

今年度のノーベル物理学賞は、米プリンストン大学の真鍋淑郎上席研究員（90）と独マックスプランク研究所のクラウス・ハッセルマン氏（89）、ローマ・ラ・サピエンツァ大学のジョルジオ・パリージ氏（73）に授与すると発表しました。受賞理由は「地球温暖化の予測のための気候変動モデルの開発」です。



真鍋氏は、シミュレーションを使って地球に関する物理モデルを開発し、気候の成り立ちと変動を解明しました。また二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の増加に伴う地球温暖化に

つながる基礎を確立しました。

ハッセルマン氏は、天候と気候のモデルを作りました。人間の活動によって排出されたCO<sub>2</sub>が大気中の温度上昇につながることを明らかにしました。

パリージ氏は、物理システムの無秩序で複雑な変動パターンを発見しました。

真鍋氏は、気候予測という学問を創り出し、物理の原理原則を積み上げれば、地球環境を再現し予測できると示しました。

IPCCの報告書の直後に、半世紀前に科学的根拠を示した真鍋氏の受賞が決まったことは、実に象徴的な出来事で、世界的な脱炭素の流れの中での受賞はこの分野への期待を表しているのではないかと思います。

## ルールとマナー

10月の全校集会で生徒指導部より、マナー研修が開催されました。

皆さんはルールとマナーの違いについてわかりますか。

ルールとは、規則や規範などの守るべき基準のことをいいます。

マナーとは、相手を思いやって行う行動のことをいいます。

ルール違反をすると処罰を受けますが、マナー違反をしても処罰は受けません。しかし、相手に対して不快な思いをさせます。

学校という所は集団学習の場です。

ルールを守ることは、学校生活をする上でお互いに最低限必要なものです。

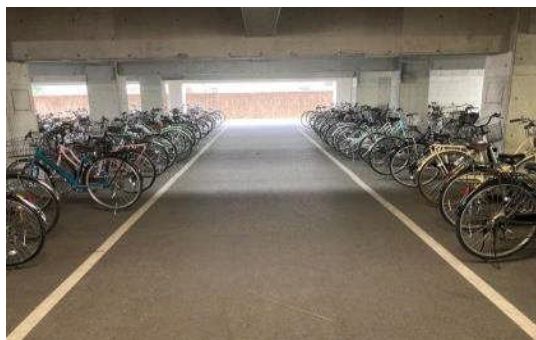
マナーを守ることは、学校生活をよりしやすくする上で欠かせないものです。

ルールを守り、マナーを向上させることによって、お互いが気持ちよく学校生活を送れるようにしましょう。

「皆さんは、どう思いますか・・・？」



「少しの気配りで、みんなが気持ちの良い駐輪場に！」



## 高水フライド -明日に向けて-

20日の6限に、13の運動部・9の文化部の部長と生徒会の会長から、クラブ目標と行動目標の発表がありました。

西本生徒部長からは、「クラブ目標は競技力の、行動目標は人間力のダブルゴールを目指そう」という言葉がありました。

クラブ目標（競技力）を達成するためには、行動目標（人間力）を達成することが大事だと思い



ます。

心技体。技術を磨き、体力を鍛える中で、豊かなたくましい心が育成されます。

皆さんが日々活動する中で、うまく行くことよりもうまく行かないことの方が多いと思います。誰もが悪戦苦闘しています。それでも前向きに一所懸命に取り組む、そして楽しみながら続けることが、技術の向上に、体力の向上につながり、強くたくましい心が育っていきます。

自分を信じて行動してください。それが自信につながります。

## 11月の月間目標

### 小さな努力を重ねる

令和3年度  
チャレンジ目標

- 1 明るい挨拶
- 2 5分前行動
- 3 交通ルールを守る
- 4 1%を誰かのために

早朝、いつも野球部が練習しているマウンド近くで草抜きをしている生徒がいました。実に、感心な生徒で、私の心までがきれいに洗われるようで、とても清々しい気持ちになりました。

また、運動部の生徒が体育館や校道で早朝練習をしています。校内でも教室で早朝から自習している生徒もいます。

授業が始まるまでの早朝の時間を運動や自学自習の時間などに活用することは、とても素晴らしいことです。

毎日の小さな努力を積み重ねることが、大きなことを成し遂げる第一歩です。

メジャーリーグで活躍したイチロー選手の言葉です。「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道」。

### 二十四節気

『立冬（りっとう）』11月7日。立冬とは、冬の始まりのこと。

「立」には新しい季節になるという意味があり、立春、立夏、立秋と並んで季節の大きな節目です。 ※これらを四立（しりゅう）といいます。

朝夕冷えみ、日中の陽射しも弱まって来て、冬が近いことを感じさせる頃。木枯らし1号や初雪の便りも届き始めます。立冬を過ぎると、初霜が降りて冬の佇まいへと変わります。この日から立春の前日までが冬。

『小雪（しょうせつ）』11月22日。

北国から雪の便りが届く頃ですが、まだ本格的な冬の訪れではありません。雪といってもさほど多くないことから、小雪といわれたのだそうです。

陽射しが弱くなり紅葉が散り始めるころで、イチヨウや柑橘類は黄色く色づいてきます。次第に冷え込みが厳しくなってきますので、冬の備えは整えておきましょう。

日本の行事・暦